

# 令和4年度 学校関係者評価報告書

令和5年2月21日

午後6時00分

学校法人双葉学園 ふたば認定こども園横川目こども園

学校関係者評価委員会 11名

## 1. 本園の教育目標

- ①自分で考え行動し、最後までやり抜く子
- ②優しく思いやりのある子
- ③伸び伸びと自分を表現できる子

## 2. 本年度重点的に取り組んだ目標・計画

設立2年目ということで、保護者及び地域への当学園の教育保育の更なる理解促進に努める。昨年度の課題であった、安全や食育指導の周知にも力を入れ、園の活動が広く知られるよう広報していく。また、ECEQ公開保育を行うことで、第三者の意見を取り入れ、幼児教育の質の改善、向上を目指す。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の十分な理解を図る	B	自己評価としての理解度は低いものの、日頃の保育計画や学期末評価の際に、教育保育要領を基に保育を振り返る機会をもち、以前よりも要領に触れていた。
2	質の高い教育保育の達成のために積極的に研修会への参加や園内研修を充実させる	A	幼児教育アドバイザーの訪問支援や、ECEQ公開保育を行うことで、自園の良さや課題を明確にして保育実践に生かし、職員一人一人が質向上に前向きに取り組んだ。
3	十分に幼児理解ができるように努める	B	職員で情報共有に努め、それをもとに、幼児一人一人に寄り添いながら関わってきた。
4	職場における自分の役割を十分に果たす	B	一人ひとりが昨年の反省を生かしながら、責任感をもって仕事に取り組んでいるものの、職員間の連携がスムーズにいかない場面もあった。
5	保護者との円滑な連携に努める	A	昨年度積み上げてきた信頼関係を基に、おたよりや送迎時のかかわりを通して、相互の連携を図る姿が見られた。

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

## 4. 学校評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価	理由
B	園の方針、教育保育内容への理解は昨年度よりも浸透しており、日頃の各職員への感謝や労いをいただく場面もあった。地域の方からの関心も徐々に広まっており、関わる機会が増えてきている。反面、感染症が職員間でも幼児間でも広まってしまうことがあり、疾病予防に対する取り組み不足の印象を与えてしまっている懸念がある。

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

## 5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	専門知識習得	教育保育要領の内容に対するより深い理解が進むよう取り組む
2	安全、保健衛生の取り組み	安全、及び保健衛生への取り組みを見直し、実践や啓蒙を積極的に保護者や地域に働きかけることで、理解促進につなげていきたい。
3	職員間の連携	経験の差、考え方の違いを超えて、幼児教育のための連携はどうあるべきか、日頃の情報共有を密にし、相互に折り合いをつけながら進めていく。

## 6. 学校関係者評価委員会の評価

各種おたより等から、園の方針の理解、また、質向上を目指している姿勢は伝わっており、職員一人一人の努力も認めていただいている現状である。ECEQ公開保育に取り組んだこと、またそれを広報していったことが理解促進につながっていると感じた。反面、安全、保健衛生への取り組みに対する保護者理解は不足しているため、危機管理マニュアルの見直し、及び保護者への周知を目指し、より安全安心な園運営に努めていく必要がある。